



栽培活動の充実を

校長 泉崎 春海

爽やかに澄み切った空に、心地よい風が吹き抜ける日もあれば、曇天の日や冷たい雨がしとしと降る日もあるといったように、春の天候は日替わりでよく変わります。

先日の月曜日、全校朝会でこんな話をしました。「この字を何と読むか知っていますか？」と言って「穀雨」と大きく書いたカードの文字を見せました。なかなか難しい字なので、「何という雨かな…?」「かくう?」「てきう?」などなどの珍答は聞こえてきますが、正解の声はなかなか聞こえてきません。そこで、正解の読み方を発表しました。

「この字は『こくう』と読みます。4月20日は『穀雨』でした。このところ、雨が降る日が多くなってきています。雨が降ると、みなさんは、『じめじめして嫌だな。』とか『外遊びができなくて残念だな。』と思うかもしれませんが、でも、この雨は恵みの雨なのです。

『穀雨』の『穀』は『穀物』の『こく』です。この時期に降る雨は、『穀物』が芽を出し、育っていくのに大切な役割をしているのです。」という話をしました。そして、穀物だけでなく、木々や草花の成長にとっても、雨がどんなに大切な役割を果たしているかを話しました。

ご存じのとおり、小竹小学校には「グリーンランド」という広い学校農園があります。この「グリーンランド」などを活用して、昨年度も、各学年で栽培活動に力を入れてきました。アサガオやチューリップ、サツマイモ、ヘチマやツルレイシ、稲などを栽培しました。2年生は、アサガオを栽培するだけでなく、花が咲いた後にできた種を1粒1粒とって保管し、それを新しい1年生にプレゼントしました。

植物は種をまいただけ、苗を植えただけでは育ってはいきません。こまめに水をやり、肥料をやり、畑の雑草を抜くなどの世話をこそ、初めて育っていきます。子供たちも、次々にどんどん生えてくる雑草を、暑い季節に汗だくになって一生懸命ぬいて、植物を育てていくのです。

これから、それぞれの学年で、栽培するものを決めて植物を育てていきます。

「自分たちの植物」を「自分たちの力」で世話をして育てる中で、植物が育っていくことへの大きな喜び、植物を育てることの大変さなど、様々な経験をしてほしいと思います。そして、植物という「命」を育てることを通して、植物をはじめとした他者を慈しむ心をはぐくんでほしいと願っています。